

# YAMAHA MARINE NEWS

すべてのヤマハマリン販売店のための情報誌

ヤマハマリン ニュース No.111



1997

1/2  
JAN/FEB

特集▶ ユーザーに聞く、ニューモデルの魅力

## やっぱりヤマハが「いちばん」

漁船、和船主力店のための ● 浜を訪ねて

農機具の発想でノリ養殖の現場も省力化を目指したい

MJビジネスのヒントを探す ● HOP STEP JET

### '97ヤマハマリンジェットビジネスミーティング

YAMAHA NOW ●

SRVを魅力的にする強力アイテム

発売後、3年目に突入するSRV。特集でもレポートされている通り、入門者層にとって、この商品は未だ新鮮さを失うことなく、魅力あるボートとして大いにアピールしている。今回はSRV関連のオプション、用品のご紹介を兼ね、さらにSRVをグレードアップ。是非お客様に夢をお伝えしながら本体の拡販とともに、用品の売り上げにも結びつけたいものだ。既存のオーナーに、またこれから購入しようというお客様に、オプションや用品が広げる遊びの世界を是非お伝えいただきたい。なお、2月に発表される新たなパッケージボートに対しても魅力あるオプション、関連用品を開発、ご用意する予定。ご期待ください。

# 魅力アップ



双眼鏡 7×50マリン  
¥19,000



## 例えば Camping

- 双眼鏡
- 各種ナイフ
- スピードテント
- ランタン
- etc.



ガスランタン  
¥11,000



スピードテント  
¥11,000

## 例えば Fishing

- ロッドホルダー
- ロッド
- スピニングリール
- ルアー
- タックルボックス
- レジャークーラー
- etc.

ロッドホルダー 72012  
フィッシュオン#1  
¥7,900※



マルチスーツ  
クルクルフード付き  
¥14,800

ルアー (カツオ用)  
ソフトバード付き  
¥3,900



ボートキャストセットA  
¥64,700



●フルボートカバー ¥120,000  
●ハーフカバー ¥84,000  
(写真はハーフカバー)



●クッションセット ¥48,000



●フェンダークリッパー  
(8~10f) ¥3,200  
●インスペクションカバー  
¥2,600



●マリンホルダー  
¥1,500



●ハンドル (左右)  
¥11,000



●コンパス70VN ¥27,000

YAMAHA NOW

# お客様に広がる夢を伝えてあげたい 『SRV+オプション+用品』で

そして  
*Marine Play*

- ウェイクボード
- 水上スキー
- スノーケリングセット
- etc.

コックピット  
¥34,000\*

コネリーT2  
¥112,000

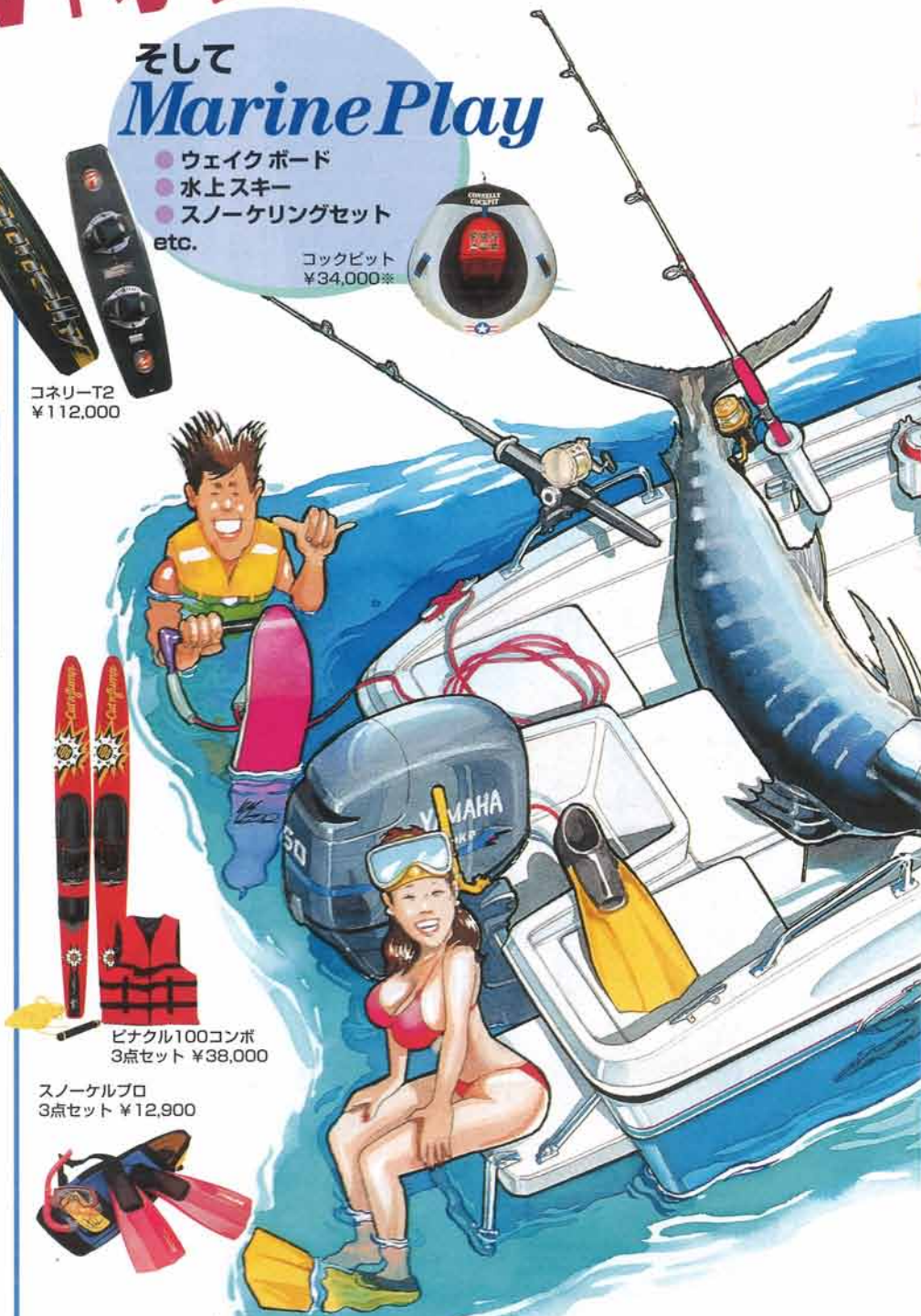
SRVオプションの  
売れ筋はこれだ!  
SRV関連部品装着率



0 10 20 30 40 50 60 70 80

パウレール (GN1-62411-10.20)	72.0
ウインドシールドASSY (GN1-61801-00)	63.8
ファインダーグローブ (A00-64902-01)	59.1
プラットフォーム (90790-80010)	55.8
スタンレール (GN1-62412-00)	50.6
ナビライトセット (GN1-W0811-00)	29.9
オーニングブルー (90790-80034)	26.0
マスト (GN1-66211-00)	25.5
クッションラバー (GN1-61755-01)	24.8
トランサムパットセット (GN1-W0835-00)	14.6
マスト (90790-80035)	13.0

全国のSRVと関連オプションの出荷実績を元に算出してみました。これを見ると多くの人が様々なオプションを取り付けることでSRVライフをより充実させていることが伺えます。パウレールは既に標準並の装着率。またファインダーグローブ、プラットフォームの人气が際立っています。購入済みのSRVユーザー、新規購入予定のお客様にも是非お勧めください。



ビナクル100コンボ  
3点セット ¥38,000

スノーケルプロ  
3点セット ¥12,900

●このイラストはイメージイラストです。オプション、用品の有無、取り付け等に際しましてはマニュアルやカタログをご参照ください。●表示価格の※印は97年1月からの新価格です。

SRVは用品オプションも充実!



●カラー魚探YFV630Ⅲ  
¥154,000(インナーハルを含む)  
●ファインダーグローブ  
(フタ付き) ¥19,000



●トランサムステップ&ラダー  
¥53,200



●オーニング(ブルー/グリーン/レッド(限定)) ¥100,000  
●マスト ¥9,500  
(航海灯は含まない)



●タープ ¥7,000

# 特集 ユーザーに聞く ニューモデルの実力



**浜**

名湖での新艇発表後、全国各地で一斉に、一般ユーザーを対象とした展示会が行われた。UF28、UF33、さらに4スローク船外機を搭載したSRVなど「熟成」をキーワードに送り出したラインナップはいずれも

やっぱり  
ヤマハ  
いちばんが

好評だ。10月4日から6日にかけて東京、名古屋、大阪で行われたニューモデル展示会を取材し、訪れたユーザーの「反応」、さらに展示会を通して各販売会社のスタッフが得た「感触」をお聞きし、まとめてみた。



# ヤマハ展示会担当者が得た'97への自信 新規客の来場が大幅増 パッケージボート<SRV>は好イメージ定着

東京地区

フローティング展示で来場者数はアップ  
〈CR-27 SEDAN〉、〈SRV〉らが人気の的



今後新規開拓を中心に、PP獲得の場として展開していきたいという。

東京地区では初めて横浜ベイサイドマリナーを会場にフローティングショーを開催。その効果もあって、悪天候にも関わらず前年比112%の動員を達成した。また、マリナーが会場ということもあって、DM来場者の他、ほぼ同数のフリーの来場者を呼び込めたことも成果としてあげられる。

契約艇、PP艇は多岐にわたり、PC-41SF、UF-33、FC-24など。さらに実績こたわず見ると「特に注目されていたモデルはCR-27 SEDAN、SRV、PC-41SF、SF-35ですね」と担当者。

「ベイサイドマリナーという保管環境を目的の当社にして、別荘感覚のCR-27のウケはとてよかったですね。また、ベイサイドの保管オーナーから代替えへの憧れとしてPC-41SFやSF-35が注目されました。SRVは引き続きアウトレットアブームに加えて、商品イメージが定着、さらにバリエーションが増えたことが効果として表れています」

## 新規層の予算が若干上がってきた。 免許取得者を徹底フォロー

名古屋地区

「こうした見込み客を見つけ、確実にモノにしていくことが大切。免許取得者を中心に、新規客をターゲットに徹底的に走り回っていきます」と意欲を掻き立てる結果となった。

「SRVなどエントリーモデルは、今すぐ買う、というパターンは少なかったのですが、興味を持って見ている人が多かったです」といい、パッケージボートの認知度の高まりを実感。また、「初心者の方が予算1000万円ぐらいでCR-27 SEDAN O/Bを検討するなど、新規層の予算が昨年度に比べると上がってきているように感じます」というように明るい兆しを認めている。

選挙の関係か、来場者数は昨年比若干下回ったというものの、総来場者数のうち、非オーナーの来場者が80%を越えた。「イベント開催時期がマリンシーズン中なので、オーナーの来場者は少なかった」としながらも、「ここでも新規への拡がりを垣間みることができた」。



大阪地区

## Bクラス商品が対前年で114% Aクラスも有力見込み客を大量発掘



昨年同様、吹田市の千里ミリカで開催されたが、雨が影響してか、昨年比べると来場者数が減少している。それでも担当者は「最終的には成約に結びつきそうなAクラスの獲得PPもかなりあり、そんなに悲観はしていない」と手応えを感じ取っている。免許の申込者も3日間で41名を数え、開催期間が昨年比すべて短いことを考えれば好結果といえる。

契約内容を新規/代替え別に見るとボートでは新規が72%、代替えが14%、買い増しが14%。ヨットでは新規が25%、代替えが75%という分析結果が出ている。

「DM発送した方以外にも、看板などを見て来場してくださる方も目立つ。新規客の拡大というテーマに関しては良い方向に向かっていると感じた」

また、個人購入の比率が増え(ボート71%、ヨット100%)、「家族や個人の遊びを意識するといった今の時代を反映した結果ではないか」と見ている。

# セールストーク を探せ!

## 展示会来場者に聞いた 「ヤマハ」と「マリンライフ」 のセールストークを探していききたい。

横浜、名古屋、大阪という大都市圏各地で行われたヤマハ「ニューモデル展示会場」において、来場者の方々に話をお聞きした。質問項目は来場目的から、気に入ったモデル、検討している他社モデル、など。その一つ一つの言葉から「新規開拓」「代替え促進」のためのセールストークを探していききたい。

### ◆イメージ／信頼度の高いヤマハ製品

今回の取材で、最も編集部を喜ばせたのはヤマハの知名度の高さ、イメージの良さ、信頼感の高さなどを改めて実感できたことであった。新規需要層に対する小型パッケージボートはSRV以降、各社から発売されているものの、やはり代表格であるSRVのイメージの浸透ぶりは抽んでいてという印象だ。

横浜ベイサイドマリナーでもSRVは注目の的だった。

大学時代からの友人同志でYAMAHA 23(ヨット)を共同で所有しているという33歳の会社員は「グループでセカンドボートが欲しいということになって見に来ました。今のところ候補はSRVだけです。他のメーカーからも低価格ボートって出ているんですか? それは知りませんでした」と言い、その会社員の友人は「実は他社のボートもカタログなどで見たのですが、スタイルが最も

自分の好みに合っていたので敢えてSRV以外は候補にしません」と言う。

さらに「今、伊豆にヨットを保管しているのですが、その置き場にSRVが最近増えてきてすごく目立っているんですよ。それで「ああ、ボートもいいなあ」と思い初めて。とにかくインパクトがあつたんですね」とも。

市場にSRVが増えていくにつれ、その浸透度は増すばかり。と同時に、店頭での展示がいかに効果的かを改めて物語っているのではないだろうか。

もう1人、東京での例だが「今はジェットに乗っているんですが、1人で乗り回すのに飽きてきたし、友人とみんなで楽しめるボートもないなあと思ひまして」とSRVを熱心に見ていた30歳の会社員。予算は300万円ほどなのだが、保管場所の保証金やら入会金などを考えてSRV、もしくは中古艇を検討しているのだと言う。

「メーカーとしてはやっぱりヤマハがいいですね。バイクに乗っているんですけど、ヤマ



ハに対しては信頼感を持っているんです」このようにSRVに限らず、「ボートならヤマハ」というファンはかなりの数いる。

名古屋では新規層、代替え層を問わず、ヤマハファンが圧倒的に多かった。そのうち最も多かったのは「造りが丁寧、信頼感がある」というもの。また「他社に比べてデザインが良く、スマート」「他社に比べて価格はやや高い感があるが、それだけ造りもしっかりして

いるし信頼感がある。自然を相手にする遊び道具なのだから価格だけにこだわらたくはない」といった意見がかなり多く聞かれた。

### ◆製品別評価／好評、UFシリーズ

東京、中部ではCR-27 SEDANの人氣が高く、新規層に大いにアピールしたようだ。先述した通り、横浜では実際に棧橋に係

# 特集 ユーザーに聞く ニューモデルの実力



留していたこともあり、商品コンセプトをストリートに伝えることができたこともあるだろう。

全国的にはSRVが相変わらず新規層にその魅力をアピールし続けているという印象である。大阪の展示会場で聞いてみよう。ディングーを所有していると言う30代の男性は「ディングーだと体力的にもしんどくなってきた、年3回ぐらいしか海に出ないのが現状です。もっと気軽に乗れるボートに興味が出てきました。SRVはいいですね。低価格という要素は大きいのですが、それだけでなくスキューバに使ったり釣りに使ったりとオールラウンドに活躍してくれそうで、見ていてイメージが膨らみます」

また、「センターウオークスルーや前部のデッキスペースが魅力的。釣りや水上スキーを楽しみたい」というコメントも多い。

発売当初から言われ続けてきた評価であり、決して目新しいセールスポイントではない。しかし、発売後3年になろうというモデルが、未だ新鮮さを失わず、これだけ新規入門層にアピールし続けていることに感動すら覚える。4ストロークバージョンも追加されバリエーションも豊富なSRVは、しばらく新規開拓における急先鋒の商材として活躍してくれそうである。

またニューモデルのUF-28、UF-33はもちろん、23、20などを含め、タックルシリーズは根強い人気。日本の国民的フィッシングボートとしての地位を完全に築いている。特に28、33の両ニューモデルは、「熟成」という開発コンセプトが確実に受け入れられているという印象を受ける。

横浜で30フィートクラスのクルーザー（輸入艇）を所有している40代後半の男性は「釣



りという機能に絞り込んだところに好感が持てる」とUF-33を熱心に見入っていた。「今の自分のボートはいわば何でもできるフネ。それはそれでいいのだが、こうしたある一つの遊びに特化したボートが欲しい。実は今のところ買い換える予定はないのですが、こういうフネを買い足すのが夢なんです」という。

「今まで乗合専門で釣りを楽しんできましたが、そろそろマイボートもいかなと思ってきました。遊びは釣りだけなのでUF以外は考えていません。冷やかし半分だったのですが、UF-28を見ていううちに無性に欲しくなってきました」とは40歳代の会社員。また名古屋でもUFは好評だった。

「僕の場合はウォークアラウンドは絶対条件。6気筒のエンジンを搭載しディーゼルで遠出できる、などの理由からUF-28に注目しています。N社のボートとも比較していますが、造りはヤマハの方が断然いい。今、FR-24に乗っていますが、乗りやすく疲れな

選びます」これは50代男性、FR24のオーナーの弁。

また40代男性、UF17のオーナーは「置き場と予算の都合でUF23かS社の21フィート艇を考えていますが、本当はUF28が欲しい(笑)。ディーゼルの割には価格が安いという印象です。燃料タンクが大きいことも気に入った理由の一つです」

さらに旧UF33のユーザーだという50歳代の男性は「買うならFC31か、もう一度UF33にしたい」という。

「今度のUF33はスマートなデザインがいい。釣り好きと言ったって、漁船みたいな船には乗りたくないので。それに見るからに乗りやすくなったという印象を受けました。サイドウオークが若干広くなりましたよね? それとキャビンも明るくなったし、ルームライトもついた。もうパーフェクトに近いと思う、言うこと無いですね」さて、これらUFシリーズに限らず、ボート購入の目的は圧倒的に釣りが多い。新規層も多種多様な遊びを夢見ているが、中には必ずと言っていいほど釣りが含まれている。

また中型以上の見込み客には、「トローリングがしたい」という意見が目立った。全国各地でビルフィッシュトーナメントが盛んに行われ、ユーザーの多くが大物釣りに憧れを示すようになった結果と言えないだろうか。横浜の展示会ではPC41SFやSF35など、コンバーチブルモデル、スポーツフィッシュヤーマンが大いに注目されていたし、大阪でも同様だ。

「父親が輸入艇を所有しているのですが、その以前のSF51が非常に良かったので、僕個人としてはヤマハを選びたい。SF35に

興味があります」(大阪/20代の男性)

「友人にボートに乗せてもらったのがきっかけで購入意欲が沸いてきました。20年以上もトローリングをしている友人の評価がものすごく高く、強い勧めがあったのでPC27をオーダーしました」(名古屋/50歳代、男性) というコメントも。

その他、UF28、33の見込み客も、多くの方が今後やってみてみたいマリンレジャーとして「トローリング」を挙げており、後継艇を考慮したオープンガンネルの採用が受け入れられていた。

### ◆買い控えの原因は 保管場所

さて、「購入する際、気になること」について聞いてみた。これはもう毎度のことなのだが、「せつかくフネが安くなったのに、保管場所の料金がまだまだ高い」(大阪/30歳代、

男性)「和歌山にフネを置いているが、もう少し手前(大阪寄り)に安い保管場所があればもっと海に出れる」(大阪/20歳代、男性)

「もっと簡単な施設でいいから安い保管場所が欲しい」(大阪/40歳代、男性)など、「保管場所」に絡む悩みがダントツで多い。

「保管場所が無いから」という理由でトレーラーに積むことのできるボートを望む来場者もいた。名古屋でトレーラーとセットで展示されていたFR17を熱心に見ていた35歳の会社員は

「自宅の庭に保管したいのでこのサイズのボートがいいかなと思っっています。いかにせんマリナー料金が高すぎますよ」と言う。

また、編集部が会話した中で、SRVが気に入ったものの「このボートはトレーラーで運べるのか」と質問する来場者もいた。2月に発表される小型ボートにも期待したいところだ。

しかし、横浜でお話を聞いた今関商事さんの営業マンは「保管場所がないと言うが決してそんなことはない。多くのマリナーが、時代を反映して料金を下げてきているし、交渉次第でまだまだ低価格でおけるスペースはあります」と言う。

これは多くの販売店さんの共通の意見でもあるのではないだろうか。



また、PBSやフィッシュャリーナなどがオープンしても一般消費者にまでその情報が行き届かないといった事情もあるだろう。とにかく「保管場所が少なく、高い」というイメージを払拭するには確実な情報提供が不可欠だ。

免許所持者などのオーナー予備群と一人でも多く会話の機会を持ち、説明してあげることが大切なのだろう。そのためにマリンナバースなどの誘店策を積極的に活用したいものである。



# 特集 ユーザーに聞く ニューモデルの実力

## ユーザーの意見あれこれ

### 誤解や勘違いも多かったお客様のニューモデル評

さて、インタビュの中で実際に耳にしたヤマハの製品、および販売店の対応等への意見もまとめてみた。勘違いというか、トンチンカンな誤解も含まれていて、編集部としてはその場でフォローしてきたのだが、敢えてご紹介してみよう。

「UF-28はポートフックやロッドなど長モノを収容する場所がない」  
キャビンではダメですか？ デッキ回りならオプションで対応。釣りのスタイルによって好きな場所に着けられます。

「艇体はしっかりしていて仕上げもきれいだが、ポートを知らない人がデザインしたのではないか？」  
35年もフネを造ってきたメーカーがフネを知らないはずがありません。特に今回の「熟成」ニューモデルはフネを知り尽くしたから生まれた傑作だと自負しています。後述しますがフネを知っている（ハズの）各専門誌も絶賛しています。

「UF-28や33はトロリーリングのときエンジンケーシングが邪魔。サイドウオークもいらぬい」  
そこまでトロリーリングだけにこだわるお客様にはUFよりもっといいフネがあります。

「SRVはかなり安い、その分耐久性及構造など不安がある」  
「デザイン、軽量化、リーズナブル、良い傾向にあるようだが、安全性を重視してフネを造って欲しい」

多少にかかわらず不安がある製品をYAMAHAのブランドで販売するわけにはいきません。SRVの場合、発売当時のマリンニュースでも

ご紹介したとおり、信頼されてきた従来艇の型を使用、他モデルとの共通部品を使用するなどしてコストを下げています。この方法は現在、他のモデルにも応用されており、SRVだけがコスト削減の対象となっているわけではありません。

軽量化については、FEP構造解析など先進の技術による成果であり、十分な強度を持たせた上で軽量化を実現しています。

「購入後の指導など、もっとユーザー満足度の向上に努めるべきだ」  
これについては業界ナンバーワンを自負していますが、まだまだ至らない点もあるかも知れません。販売店の皆様のご協力をいただきながら、さらなる顧客満足度の向上に努めていきたいものです。（編集部）



## 専門誌のインプレッション

### 各誌が高評価を与えたヤマハニューモデル

9月の新艇発表会が終わった後、各専門誌が一斉にヤマハのニューモデルを取り上げた。その評価はいずれも高く、各艇の完成度の高さを、改めて実感することのできる内容のものばかりである。

「ポートプラス」誌ではニューモデルのコンセプトである「熟成」の文字をタイトルに用い、紹介しているが、前号のマリンニュースでのインタビュに違わず、好意的に各モデルを取り上げている。また「オーシャンライフ」誌では20頁にわたって、全モデルを取り上げ、各モデルについて詳細に独自のインプレッションを掲載しているが、拍子抜けするほど褒めちぎっている。ぜひ見込み客の方々にも読んでいただきたいでしょう。

左記は主なモデルの記事より抜粋。

#### SRV/F-50

「(F50と)SRVとのマッチングもなかなか好印象。充分なパフォーマンスだ」(ポートプラス)  
「エンジンがかかっているにもかかわらず、もう一度かけてしまおうと言うくらい静かである。トップスピードやパワーも2ストロークモデルと比べて遜色ない」(オーシャンライフ)

#### UF-28

「完成度において印象的だったのがUF-28」(ポートプラス)  
「これなら沖釣りのポイントに行く際に多少荒れていても不安を覚えることもないだろう」(オーシャンライフ)

#### UF-33

「熟成というキーワードをテーマに実に美しくまとまったフィッシングポート」(ポートプラス)  
「釣りやすさを追求したUFシリーズのフラッグシップモデルはうるさ型の釣りマニアも納得する走りも含めたトータルバランスの高さが一番の魅力となるだろう」(オーシャンライフ)



## マリンレジャーをとりまく規制を考える

各メーカーの企業努力により、今やプレジャーボートも家用車並みの価格で購入できるようになったが、その一方でいわゆる放置艇問題が年々深刻化している。増え続けるプレジャーボートに今どのような対応が求められているのか、前回、マリナー建設におけるさまざまな規制について(社)日本舟艇工業会の石渡氏に語っていただいた。今回はさらに踏み込み、保管場所の解決に向けて一つの鍵を握ると思われるトレーラーの活用について引き続き石渡氏にご意見を伺うとともに、わが国屈指のトレーラーメーカー、小塚自動車(株)を取材させていただいた。

## ▼水面に頼るだけでは問題は解決できない

日本は四方を海に囲まれているため、海岸線の総延長距離は米国と比べてほとんど差がないという。

前回、石渡氏は「米国のプレジャーボート保有隻数は約1500万隻。日本のそれは約32万隻と言われています。現在わが国の海岸線の約半分は工業や漁業などの産業用地で占められています、それ

を考慮しても米国と日本のプレジャーボート保有隻数は50対1と、途方もない差です」と述べた。いったい米国のプレジャーボートはどこに保管されているのだろうか。

答えは簡単で、多くの人がトレーラーに載せて自宅に保管しているのである。米国では家用車で3tまで牽引できるので、中小型艇の多くが問題なく自宅から海辺へ運搬でき、しかもユーザーが自分で降ろせる公共の斜路(揚げ降ろし用

のスロープ)が数多く整備されている。

「現在、わが国では0・75t(トレーラー自重含む)までしか家用車で牽引できません。確かに道路事情が米国とは異なりますが、舟艇工業会としては、せめて1・05tまでに規制を緩めていただけたらと思っています」

牽引する家用車に合わせた横幅の規制も考慮すると、0・75tの枠では17ft艇を牽引するのがやっとである。それを、現在エントリーモデルの主流である20ftクラスの艇(1・0t前後となる)が牽引できるようになれば、放置艇問題を深刻化させることなく、プレジャーボートの普及に弾みがつくというわけである。

「今、都市部における臨海地区の工場が規模を縮小したり地方へ移転したりして、かなり空き地が出ていますが、そこを使ってマリナーを造ろうとしても工業専用地域に指定されている限りボート保管などのサービス業は一切認められません。仮に土地の用途変更を申請しても、途方もない時間と手間がかかってしまいます。これはこれで解決していかねばならない課題ですが、その一方で、ならば海に面していなくても浜に近い駐車場のような保管スペースにトレーラーごとボートを置いて、乗りたいときに海まで運ぶようにすれば、かなり放置艇問題も解消するはずです。日本は米国のようにボートを置けるような庭のある家は少ないですが、考えればアイデアは出てく

るものです。また、そうしなくては放置艇問題は解決できないでしょう。少なくとも現状では、接水している土地に限りがあります」

## ▼トレーラー普及の課題

「今、キャンピングカーが流行っていますが、こうした大きな車両は一般の月極駐車場では敬遠されがちです。そこで最近、一部の県ではキャンピングカーに関して、自宅から半径2km以内でも車庫証明を出すようになりました。こうした考えをトレーラーにも当てはめていただければ、マンション住まいのユーザーでもトレーラーボートが楽しめます」

家用車のように毎日乗るわけではないのだから、車庫証明さえ取ればトレーラーとボートは家から少々離れた場所に置いておき、不便ではない。大型クルーザーはともかく、中小型艇ならマリナー保管にこだわる必要はないといえよう。ただし、トレーラーで海まで運んでも、水面に降ろせなくては話にならない。「トレーラーの普及を考えた場合、保管場所の次に問題となるのが斜路施設ですが、これも考え次第では解決できます。まず、国体用のマリナーにはかならず斜路が設けられています。すでに国体は全国を一巡しましたから、おおよそばに言えば各都道府県に最低1カ所はあるわけです。また、漁港にも設けられていますし、新たに河川敷に設置してもいいんです。河川敷は増水が心配されますが、普段ボートは別の場所に保管されているわけですから心配ありません。増水で斜路が沈んでも水が引けばふたたび利用できるわけです」





河川敷は公共のゴルフ練習場などにも利用されており、その料金はポケットマネー程度（河川敷利用料などの名目で建設省に収められている）。同じような発想で斜路を設置すれば、誰でも低料金でボートの揚げ降ろしができるはずである。

「河川法は河川の保全を目的にしていますから、それに抵触しないアイデアを考える必要がありますが、建設省は公共性の高い利用については受け入れる姿勢を持っています。だから、社会問題となっている放置艇の現状を十分に説明すれば、理解していただけるものと考えています」

放置艇対策は方法論が問題なだけで、それぞれ立場の異なる人たちが同じテーマを囲んで議論できるところまで来ていると石渡氏は言う。ならば、業界としては具体案を考え、それを提示しながら周囲の理解を得られるよう努力する必要がある。そうしなければ、トレーラーの車庫証明からはじまり斜路施設の整備

にいたるまで、すべての壁はクリアできない。

## ▼再考の時期にきた30年前のトレーラー規制

現在のトレーラー規制の骨組みが具体化したのを受け、昭和44年からトレーラーの製造販売に着手した吉田部長に話を伺った。

「トレーラー規制は、自動車工業会や自動車車体工業会などが話し合って決めた、業界の自主規制です。それが運輸省に認められて法制化されました」

この話は、高度経済成長期に入った昭和40年代初頭のこと。カローラやサニーといった1000ccクラスの家用車が大量車としてデビューした頃である。当然ながら規制の内容も、このような家用車の利用が考慮されていた。

「それから30年、いまは2000ccを超える高馬力車が一般的になりましたが、

トレーラー規制の中身は当時と変わっていません。ですから、仮に1・05tまで規制を緩和した場合、法的なこととはうまくして、構造的には問題はないと思います。緩和は消費者も望んでいることだと思います」

ユーザーのトレーラーに対する期待度を見ると、良い例となるのがPWC（パーソナルウォータークラフト）だろう。ここ数年、PWC用トレーラーの需要が飛躍的に伸びていると、吉田氏は言う。PWCなら、斜路がなくても砂浜から簡単に降ろせるし、2台積みめのトレーラーでも規制の枠内に収まる。トレーラー自体も小さいので、庭に保管できるユーザー人口の数もボートの比ではなく、PWC本体の保管を請け負うショップなども多い。つまり、前記したトレーラー普及の条件が、ことPWCに関しては概ね揃っているわけである。もし、ボートもPWC並みに諸条件がクリアできたら、普及に拍車がかかるのは明らかだ。

一方、そうなったときにメーカーサイドが直面する悩みもある。

「今、新型トレーラーの認可を受けるには、東京の霞ヶ関と三鷹の事務所に向いて書類審査を受け、さらに埼玉の熊谷のテストコースで実車の検査を受けなければなりません。その費用や時間的なコストが、結局は販売価格にも影響してしまいます。せめて、1カ所の審査で済めばかなりちがうんですが・・・」

トレーラーの車検を受けるには、運輸省の認定品を購入する他にも、各ユーザーが自分の住所を管轄する陸運事務所にてトレーラーを持ち込んで検査を受ける方法がある。ただし、これはあくまでも

個人レベルの話であり、スタッフや検査場に限られる陸運事務所にはメーカーが大量の製品を持ち込んでも対応しきれず、また仮に検査できてもナンバープレートは陸運事務所が管轄するエリア内にしか発行できない。小塚自動車(株)さんのように全国展開するメーカーとしては、やはり運輸省の認可を得る必要がある。

近年、安価な輸入トレーラーが出回るようになったが、これらの多くは運輸省の認可を受けず、ユーザーもしくはショップレベルで個人的に陸運事務所で車検を受けている。認可コストが販売価格に影響する国産メーカーとしては、価格競争で厳しい戦いを強いられている。



出荷を待つ小塚自動車(株)さんのトレーラー



松尾社長とヤマハ発動機が共同開発した、もぐり船。現在、玉名に3隻導入されており、浜の省力化が期待されている

ハコ船。小型で機動力があるため、浅瀬にひしめく竿網の中を自由に動ける

# 浜

を訪ねて

熊本県／玉名市

(有)松尾鉄工所

## 農機具の発想で ノリ養殖の現場も 省力化を目指したい。



今から40年ほど前、農機具メーカーに勤めていた若者が、ある鉄工所が売りに出されたのを聞いて独立を決意した。普賢岳を対岸に望む有明海沿岸の街、玉名市に工場を構える(有)松尾鉄工所さん誕生の経緯である。

会社を興したのは、当時28歳の松尾社長。現在72歳で、後継者として43歳の息子さんも仕事を手伝っているが、まだまだ元気に自分で車を運転しては現場に足を運んでいる。

「最初は、前の仕事と同様、農機具が中心でした。当時から浜ではノリ漁が盛んでしたが、動力船など使っていませんでした」

しかし、船外機の普及とともに浜の様子は次第に変化していった。松尾社長のもとへ、半農半漁で生計を立てる浜の人たちが農機具と同様、船外機の販売やメンテナンスを求めるようになったのである。

「当時の船外機は故障が多くて泣かされましたが、船が動力化するとともにノリ漁場が拡大し、私どもの仕事も陸から海へ移っていきました」

有明海沿岸では遠浅な海に何本もの竿を立て、その間にノリ網を張る漁法が一般的に行われているが、現在では竿を立てられない沖合いにもアンカーを打って網を固定する、ベタ流しという方法もとられている。動力化とともに漁場が広がり、生産力もアップした。

「ノリ養殖の作業は待たなします。沖でトラブルが発生したら、潮が引くまでに修理しなくてはならず、翌日に回すなどということはできません。今は漁師さんが携帯電話を持っていますから、何かあったらすぐに電話がかかってきます。しばれるような冬場でも、電話が鳴ったら早朝から修理に向きます。創業当時からあまり営業は意識せず、もっぱらアフターケアに専念してきましたが、辛抱したからこそまでやって来られたんだと思います」

機械いじりが好きで、仕事が増えるほどにやりがい

## (有)松尾鉄工所

- 創業 昭和33年
- 従業員 9人
- 商圏 熊本市～荒尾市周辺
- 主力商品 船外機115～200馬力  
和船Wシリーズ

有明海周辺では、養殖ノリの採取や酸処理と呼ばれる養殖網の消毒作業にハコ船と呼ばれる正方形に近い安定した小舟を使っている。ハコ船に網を引きあげて採取し、W-38などを利用した運搬船に移して水揚げする。

もぐり船は、船自体を網の下に潜らせ、船上に設けた刈り取り機が自動的にノリを採取する。重労働である網の引きあげ作業が不要の省力システムになっている。

もぐり船は各地のノリ養殖場で見られるが、もともと松尾社長は農機具メーカーに勤めていただけに、こうしたトラクターのような発想をすんなり形にすることができたのであろう。「腕1つ、修理一筋でここまで来た」というだけに、仕事に打ち込む情熱と技術力には定評がある。

ここでノリ漁に携わる人たちは、ほとんどが個人で商品のパッケージまでをこなしている。そのため、各漁師さんの家に大きな加工施設が備えられている。これは、採取したノリの洗浄にはじまり乾燥から品質チェックまで、商品化のすべての工程をオートメーションで流していく。

この設備投資だけで数千万円が必要で、ハコ船や運搬船といった現場作業のコストを含めると企業経営並みの資本力が求められる。

最近、コンピューター管理できる新型乾燥機を導入した坂本さんは、「政府の補助事業は結局あまり良い結果を出していない」と、あくまでも漁師個人の経営努力が大切なことを力説していた。



コンピューター管理の新型乾燥機を導入、その説明をする坂本文さん



(有)松尾鉄工所で働くみなさん



松尾社長。70歳をすぎたとは思えないほど若々しい



(有)松尾鉄工所の社屋。船外機のパーツ類の在庫は豊富で即対応に備えている

松尾社長に寄せられる浜の期待は大きい。

「各漁師さんの網の場所は毎年抽選で決めていきます。どこが良い場所は潮の変化などによって年ごとに変わるので、みなさん自分の場所は一カ所にまとめず分散させる傾向にあるんです」

こうした状況を考慮して、松尾社長はより小型のもぐり船を開発したいと思っている。創業40年、一般的に言えば引退してもおかしくない年齢だが、まだまだ

「もぐり船は、網の下に船ごと潜ってノリを刈り取っていきます。トラクターと同じ発想です」  
もぐり船を効率よく使うには、トラクターで耕す畑と同じように、広い区画にサイズを統一させた網を張る必要がある。広大な漁場の所々に、もぐり船用の網が点在していたのでは、せっかくの新兵器も活用できない。

「この浜で後継者がいるのは半数ぐらいです。早朝から夜半まで働かなくてはならない仕事ですから、若者なら敬遠します。そんな問題を改善するためにも省力化が必要です」

人は減るが水揚げは減らせない。松尾社長は、もぐり船と呼ばれるノリ漁専用船をヤマハ発動機とともに開発。これまで採取と運搬に2隻必要だったところを1隻で賄えるようにした他、酸処理と呼ばれる養殖中のノリの消毒も、この船で一度に行えることになった。

「この浜で後継者がいるのは半数ぐらいです。早朝から夜半まで働かなくてはならない仕事ですから、若者なら敬遠します。そんな問題を改善するためにも省力化が必要です」

そんな浜も最近、様子が変わってきた。鉄工所のあ

る地区でかつて300人ほどいた漁師さんが今では40人たらず。商圏全体を見ても減りつつある。しかし、漁場面積は変わっていないので、1人あたりの作業量は増えている。そのうえ浜値が昔の約半分ほどに下がったこともあって、より大量に出荷して利益を確保しようという傾向にある。

を感じてきたという松尾社長だが、正月も休まず修理に励む姿勢が自然に周囲の信頼を集める結果となった。

**CAMPAIGN**

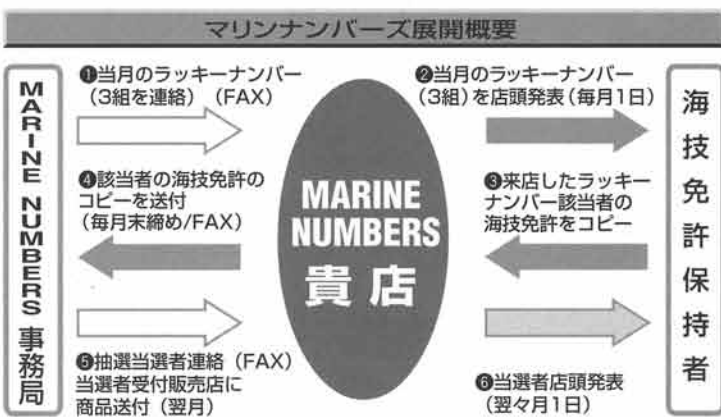
**ライセンス保持者とショップとの接点づくりにご活用ください  
マリン、LOVE CALLキャンペーン'97  
MARINE NUMBERS(マリンナンバーズ)**



店頭発表用ポスター  
(B全4色/無償)  
ラッキーナンバー及び当選者の発表ボードとしてご利用ください

MARINE NUMBERS  
告知のぼり  
(@800円/枚)  
キャンペーン参加店であることをお客様にお知らせします。専門誌等の広告でもこののぼりを告知しています

既に専門誌の広告でも告知しているヤマハのキャンペーン「MARINE NUMBERS」が本格的にスタートしました。  
このキャンペーンは、海技免許所持者すべての方を対象とし、免許番号の下2ケタを対象に毎月3組のラッキーナンバー(2ケタ)を店頭で発表、販売店に申し出た該当者の中から抽選で、毎月200名様に3000円分のUCギフトカードをプレゼントするというもの。  
免許を所有しながら購入に結びついていない潜在需要層や一人でも多くの休眠ユーザーを皆様のお店に向かわせること、さらにお店における新規顧客リストづくりを目的としています。  
写真の告知のぼりや店頭発表用ポスターの他、来店お礼用のノベルティグッズ(有償)などを活用になり、積極的にご参加ください。



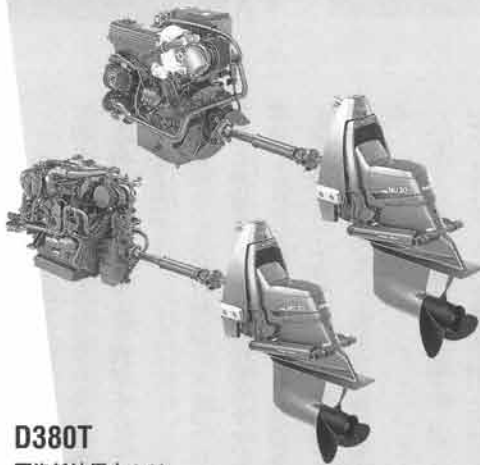
アメリカズカップやホイットブレッド世界一周レースなど、世界最高峰のレースにチャレンジしてきた中で開発されてきた超高強度、高弾性のヨット専用のロープです。特長として優れた強度を持たせながら軽量化を図り、微風から強風域までオールラウンドなコ

**世界最高峰のレースシーンの中で開発された  
ダイニーマ® 蛍光色ヨットロープ**

**GOODS & GEAR**

**D203KUT**

- 漁船法馬力：25
- 最大出力：(ドライブ入力軸出力) 112ps/3200rpm (微速装置有り)、115ps/3200rpm (微速装置無し)
- 適応ドライブ：MU30



**D380T**

- 漁船法馬力：50
- 最大出力：(ドライブ入力軸出力) 130ps/3200rpm
- 適応ドライブ：MU30

ヤマハではこのほど油圧クラッチ内蔵のドライブユニット「MU30」を開発しました。それに伴いドライブ用エンジンも一新、D203KH(112/115PS、D308T(130/115PS)を投入します。ドライブ側に油圧クラッチを内蔵したことにより、エンジン側の逆転増速機(油圧クラッチ)が不要となり、微速装置付きと直結タイプとになります。漁種・用途に合わせた、微

速装置の有無の選択が可能となり、お客様のニーズに合った価格・性能をお選びいただけます。  
またMU30はチルトアップ角度や時間など、高性能ドライブMU20と並ぶ性能を確保しています。  
なお単体販売の場合にはリジットマウントとラバーマウントからの選択となります。

**PRODUCTS**  
**シンプルにパワーアップ  
ニュー・ドライブ&ディーゼル新発売**

## 東京は102社、大阪は46社が出展 国際ポートショー、開催せまる

日本舟艇工業会が主催するマリ  
ン業界最大のイベント、東京、大  
阪の国際ポートショーが「海・遊  
ぼうアウトドアパラダイス」をテ  
ーマに間もなく開催されます。  
これまでの晴海国際見本市会場



から、臨海副  
都心の東京ビ  
ッグサイトに  
会場を移して  
行われる第36  
回東京国際ポ  
ートショーは  
2月7日から  
11日までの開  
催。出展は1  
02社で、前  
回と比較する  
と若干減少し  
ているもの  
の、小間数で  
は増加してお

り、今回も盛大なショ  
ーになりそうです。  
一方、大阪は3月6  
日から9日まで、イン  
テックス大阪での開催。  
こちらは出展者数も大  
幅に増加。ポートショー本部が急  
遽会場を増設したほどです。

### 今年もヤマハはナンバードワン テーマは「海はスポーツ新大陸」

ヤマハでは今年も東京/大阪とも  
に出展社中、最大の展示面積を確  
保し、「海はスポーツ新大陸」を  
テーマに魅力ある展開を予定して  
います。

97年度の政策でもある「代替え  
促進」と「新規需要開拓」を意識  
した展示ラインナップで、お客様  
をお迎えします。  
現状の人気モデルの他、ニュー!



モデルとしては新規需要層をター  
ゲットにSRVをシリーズ化し、  
より幅広い選択を可能にする他、  
和船をベースに開発したリーズナ  
ブルな価格設定のフィッシングメ  
イトの充実、33フィートのセイリ  
ングクルーザーなどの展示を予  
定。皆様のご商売の場としても十  
分にお役立ていただけます。

また、従来通り、イベントやス  
クール、ポータルライセンス、用品、  
マリナーの情報など、ヤマハなら  
ではの総合力を活かしたブース展  
開も見所の一つ。ぜひお客様をお  
誘いになり、ビジネスの場として  
ご活用ください。

## ACADEMY

### 〈ヤマハマリンアカデミー〉 営業/サービスの知識取得の場として 積極的な受講をお願いいたします

1990年の開講以来、多くの営業マン及びサービ  
スマンの知識習得の場としてご利用いただきました<ヤ  
マハマリンアカデミー>。今後ももさらにステップア  
ップした内容で充実した講座を開講してまいります。

#### 1996下期の開催講座

##### 【航海講座Ⅰ】

大型艇の航海技術及び運用術、操船術の習得、並びにレーダ  
ー、GPS、魚探の操作実習を通じて、デイクルージングにお  
ける船長としての責任と判断力を身に付け、オーナーに指導  
できるレベルまで能力を高めます。

##### <主な内容>

航海術(基礎編/座学)/運用術(基礎編/座学)/航海計器(座  
学)/機関保守点検(実習)/航海計画立案(実習)/2軸大型  
艇操作(実習)/沿岸航法・航海(実習)

●期間:12月4日~7日(4日間)

●受講料:80,000円(前泊を含む宿泊費込み)

##### 【航海講座Ⅱ】

航海講座Ⅰで習得した技術のレベルアップと、疑似体験をも  
とに日常では体験できない緊急時の対応力を身に付け、一層  
のオーナー指導力を身につけます。

##### <主な内容>

トラブルシューティング(座学)/潮汐(座学)/航海計器(座  
学)/救命筏(座学/海上実習)/海上交通法規(座学)/沿岸  
航法実習/気象学・海象学(座学)/用錨係留操船実習/結  
索実習

●期間:2月19日~21日(3日間)

●受講料:60,000円(前泊を含む宿泊費込み)

##### 【スポーツフィッシング講座】

主にカジキを対象にしたスポーツフィッシングに必要な装  
備、タックルの概要及びテクニックの習得を目指します。

##### <主な内容>

用具編:スポーツフィッシングルール/タックルの知識  
技術編:テクニックの知識/船上座学・実習/洋上実習

●期間:1月23、24日/3月4、5日(2日間)

●受講料:55,000円(前泊を含む宿泊費込み)

■募集対象者:マリンプラザ、マリンショップ、サービスショ  
ップ、サービス指定店、ヤマハ販売会社スタッフ

■開催場所:ヤマハマリーナ浜名湖(静岡県湖西市)

■申し込み方法:申込書に記入の上、担当販売会社宛にお申  
し込みください。

■お問い合わせ:マリンアカデミー事務局 ☎053-594-6515

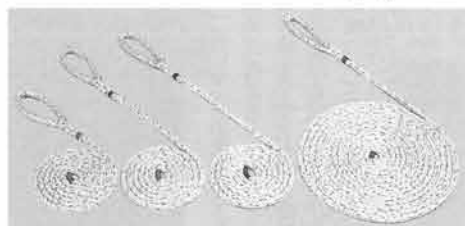
材質:手軽な価格で強度が高いナイロクロスロープ

加工:ロープ末端を端止め加工した

棧橋側には擦れ止め用にビニールを入れspray加工  
を施した

長さ:棧橋係留が一番多い25フィートから33フィートに対応した長  
さ、太さ16#使用

使用場所	係船ロープ セット各種長さ
前部右側	4.5m
前部棧橋側	4.0m
後部棧橋側	4.0m
前部後部スプリング	14.0m



マリーナ専用係船ロープセット 希望小売価格:¥16800

■お問い合わせ先:ヤマハマリン用品営業グループ

### 係船用ロープ新商品発売

係船専用ロープセットの新商品です。オーナーの方だけ  
でなく、皆様が管理する35、33フィート艇の係留施設等  
に最適な仕様となっております。是非ご利用ください。



ンディションでその高性能ぶりを発揮  
します。特にワイヤーハリヤードに代  
わる画期的商品としてレース派のオー  
ナーの方々に是非お勧めください。

#### 「主な特徴」

●優れた強度があり、軽く、半永久的  
に伸びない。

●強延伸熱処理のため振れ、キンクし  
にくい。

●カラーはファッショナブルな蛍光色  
を用意(レッド/グリーン/イエロ  
ー/パープル)。

#### ■ダイニーマ®とステンレスワイヤとの 破断強度と重量比較

ダイニーマSK60		7×19 ステンレスワイヤー	
破断強度(サイズ)	重量	破断強度(サイズ)	重量
1,600kg(6mm)	26g	1,530kg(6mm)	91kg
2,720kg(8mm)	47g	2,210kg(6mm)	131kg
4,180kg(10mm)	74g	3,800kg(6mm)	234kg
5,950kg(12mm)	99g	5,920kg(6mm)	365kg

#### 希望小売り価格(1m)

太さ	6mm	¥500	太さ	10mm	¥1,200
太さ	8mm	¥900	太さ	12mm	¥1,500

## ボート国内出荷・統計速報(96年7~9月) 1~9月で20ポイントの伸長を見せる

日本舟艇工業会では会員ボートメーカー主要8社における国内出荷実績を2ヶ月毎にまとめ、発表しています。このほど今年7~9月の出荷実績が「マリナーボート」誌において公表されました。

それによると統計を取っているボート、ヨット、パーソナルウォータークラフトの3製品はヨットを除いて好調に実績を伸ばしています。金額の方もそれぞれプラスで、前期の好調を維持。またヨットにおいても金額面で大幅に伸びています。

累計で前年と比較してみても好調さは変わりません。ボートの隻数がかなり伸びているのに対し金額がそれほどでもないのは特に低価格パッケージボートの人気が続いていることを示唆しているようです。



この勢いをボートショーを機に一層伸ばしていきたいものです。

ています。

伸長を見せており、隻数、金額ともに実績を上げています。中でもパーソナルウォータークラフトの大きな伸長は目立っています。

■ 出荷隻数・金額の前年同期比

艇種	H7年7~9月		H8年7~9月		前年伸長率	
	隻数	金額	隻数	金額	隻数	金額
モーターボート	1,652	4,511,457	1,754	4,923,949	106%	109.1%
ヨット	133	198,279	114	280,073	86%	141.3%
パーソナルウォータークラフト	2,344	1,303,721	2,427	1,435,035	104%	110.1%
合計	4,129	6,013,457	4,295	6,639,057	104%	110.4%

■ 4半期(9月末)累計前年比較

艇種	H7年1~9月		H7年1~9月		前年伸長率	
	隻数	金額	隻数	金額	隻数	金額
モーターボート	5,274	14,784,903	5,851	15,502,789	111%	104.9%
ヨット	335	826,955	335	750,908	100%	90.8%
パーソナルウォータークラフト	7,941	4,520,126	9,918	6,023,534	125%	133.3%
合計	13,550	20,131,984	16,104	22,277,231	119%	110.7%

## ヨット市場の活性化に光明 96横浜フローティング 「ヨットショー」

横浜ベイサイドマリナーでヤマハ東京がフローティング展示の新艇発表会を開催したことは特集で触れましたが、その翌週の10月10日から4日間、「96横浜フローティングヨットショー」が開催され、約2600人のファンが会場を訪れました。

主催者側で実施した入場者アンケートでは30歳、40歳代の来場者が60%を占めており、「現在ヨットを所有している」ものが64%、「免許を所持」が83.5%という結果で、「購入の予定あり」と答えた来場者は57%に達しました。

今回のフローティングショーは「目線が水上なので実際と同じ状態が見られる」「桟橋を散歩しながら楽しめる」など好評。今年4月に行われた西宮のショーも大盛況だったこともあり、今後こうした形式のショーや展示会が主流になっていくかもしれません。



フローティングヨットショーでは来場者の内57%が「購入予定がある」と答えた

## アルゼンチンで 500名規模の釣り大会 仕掛人はヤマハの代理店

アルゼンチンのボートフィッシングマンが毎年楽しみにしているイベントが「国際スルビ釣り大会」。スルビとはナマズの一種で体長は40~50cmほど。ゲームフィッシングとしても食用としてもアルゼンチンでは人気があります。10周年大会となった今年は地元アルゼンチンはもちろんのこと、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイから465艇ものボートが参加、大いに盛り上がりました。

この一大イベントを主催している実行委員長がヤマハの現地代理店「ナウティカ・レコンキスタン」のE・R・ペトロリ氏。とにかく参加者はかなりでなく、その家族の人達にも楽しんでもらおうと、あの手この手でイベントを行い、結局ギャラリーだけでも2万人近くを集めてしまいました。もちろんビジネスにも大いに役立ちました。

### ◆ 皆様からの情報をお待ちしています

マリナーニュースでは皆様からの情報ページも用意し、お便り、写真、FAXによる情報の提供をお待ちしております。またイベント等、事前にお知らせいただいた場合、編集部にて検討の上、取材させていただきます。ご協力をお願いします。

### ■ 情報の送付先

〒106 東京都港区西麻布1-1-5  
オリエンタルビル7F 株式会社社内  
ヤマハマリナーニュース編集部  
FAX 03(5474) 7898



WORLD TOPICS  
ペルー編

### 編集後記

「東京湾の本格シーバス・シーズン到来」と胸を躍らせているうち、ロッドを一振りもすることなく、シーズンの終盤を迎えようとしている。もちろん真冬でも釣れないわけではないが、ひ弱な私にはやはり寒すぎる。複雑な実務に負われ、人生至福の時を逃す、これって日常の仕事でもありそうなことだ。

マリナーニュースの展開やボートショーへの誘い出しなど、この冬の時期、しっかりと顧客情報を掴みたいものです。何はともあれ、この号が校了したら、取りあえず釣りに行ってきます。(T)

て、会場の一面にヤマハの展示ブースを設け主力船外機を並べます。さらにサービス講習会を行うという徹底ぶり。その甲斐あってか(?)この大会での船外機のシェアは50%とダントツでした。さらにTVや雑誌、新聞など26ものメディアに取り上げられたといえます。

お祭り好きなお国柄をいかした絶好のプロモーションとなっているようです。



絶好のセイリング日和にスモールボートが集結

●第18回ミニトン・スモールボート全日本選手権大会

●1996年10月18日(金)～20日(日) ●ヤマハリナーナ浜名湖(静岡県湖西市)

今年で第18回を迎える「ミニトン・スモールボート全日本選手権大会」が、ヤマハリナーナ浜名湖を舞台に開催されました。クラス分けは同型艇種が5艇以上参加した場合のみクラス分けを設定し、5艇未満の艇種に関してはすべてオープンクラスとして扱われました。

その結果、6艇がエントリーしたYAMAHHA23が単独クラスとして設定され、それ以外の6チームはオープンクラスに振り分けられました。また、残りの3チームはチャーター艇として用意されたフェスタ24でエントリー、エキシビションレースを行いました。大会全日程を通じて絶好のウィンドコンディションに恵まれ、各艇とも存分にレースを楽しみ、ヤマハリナーナシップ・ジュナサンに集まったメンバーで構成された地元・浜名湖のHAYATE 8チームが初優勝を飾りました。



北は札幌(北海道)、南は沖縄から全132艇が参加

●第22回全日本シーホッパー級選手権大会 第22回ヤマハヨットウィーク

●1996年10月2日(土)～4日(月) ●ヤマハリナーナ浜名湖(静岡県湖西市)

11月2日から4日の3日間にわたり、「第22回全日本シーホッパー級ヨット選手権大会」および「第22回ヤマハヨットウィーク」がヤマハリナーナ浜名湖(静岡県湖西市)をベースに開催され、北海道から沖縄まで全国各地から132艇が参加しました。

シーホッパー級の全日本選手権には73艇が参加。アトラクタ五輪ヨット競技にレーザー級で出場した佐々木之選手(材木座F)をはじめ強豪がズラリと顔をそろえました。

全体的に微風となった大会を制したのは17歳の飯島洋一選手。「国体で優勝した時よりもうれしい、最高のレース



全国から37チームが参加した急成長イベント

●企業対抗ヨット選手権大会

●1996年11月2日(金)～4日(日) ●八景島沖/みなとみらい21沖(神奈川県横浜市)

11月2日から4日、今年で2回目となる「企業対抗ヨット選手権大会96」が開催されました。企業・団体のヨットクラブが全国から集まり、セイリングクルーザーによってヨットレースを行うという企画が好評を博し、今年は昨年より4倍近い参加チームを集め、また、第9回横浜ボート天国の関連イベントとして開催されたため、レース海面が東京湾・横浜沖のウォーターフロントに設置されることとなり、より一層大会を盛り上げる結果となりました。

出場チームは東京、神奈川を中心に、中部、関西、九州は長崎からも参加が見られ、合計37チーム。それぞれの企業・団体の看板を背負いながらも、同じ社会人セイラー同士の交流も図れるとあって、和やかなムードが大会を支配しました。

また、レースでの使用艇は、主催者側によってフェスタ24が10艇用意され、まったく同じタイプのヨットで戦うことによ

り、純粋にチームワークやヨットのテクニックを競いあえるのも、この大会の大きな魅力と言えます。

レースは予選を9艇ないし10艇によるフリートレースで行い、決勝をマツチレースによって行うというスタイル。当初は和やかなムードで行われていたレースも準決勝シリーズともなる白熱。結局、ヘルムスマン野上敬子、トリマー斉藤愛子というソウルオリンピック女子470級代表チーム(斉藤選手はアトランタオリ

ンピック・ヨーロッパ級代表でもある)を核とした東亜建設工業チームが優勝の栄誉を勝ち取りました。

わずか2年という期間で急成長、多様な盛り上がりを見せたこのイベント、TVでも放映されるなど、話題性もあり、今後日本を代表するクルーザーレースイベントとして定着していきそうです。



# 今シーズンもno.1を目指そう!

## '97ヤマハマリンジェット ビジネスミーティング

10月25日、26日の2日間、高知県香美郡の「土佐ロイヤルホテル」、および「海辺の果樹園」において、『'97 ヤマハマリンジェットビジネスミーティング』が開催された。当日は全国のMJ契約店166店、約200名がミーティングに参加、来季の政策を確認した他、強力ニューモデル<MJ-1200GP>をはじめとするニューラインナップの説明を受け、No.1への第一歩を踏み出した。



### ● ニューモデル発表会 夢のマシンで 来季も市場をリード



強力フラッグシップMJ-1200GPを筆頭に、MJ-760GP、MJ-760VN、新機能を追加したMJ-760RZ、ツインキャブを標準としたMJ-700TZTなど、ますます磨きがかかった97ラインナップ。特にステージ上のGPシリーズ2機種は注目的で、開場と同時に人の輪ができていた。

### ● ニューモデル試乗会 GPシリーズの実力に 驚嘆の声

今回の試乗会に用意されたのはMJ-1200GP、760GP、760VN、760RZ（タイムトライアル用）の4モデル。いずれのモデルも評価は高く、中でも1200GP、760GPの両モデルに対しては絶賛する声が続いで聞かれた。特に最も多く聞こえた評価は「ストリート走行時における「トップスピードの速さ」、そして「スプレーをほとんど浴びなかった」という新スプレージャードの威力など。加えて「スタイリングとカラーリングが斬新」など外観に対する高い評価も多く聞かれ、来季への大きな手応えをつかみ取っていた。

### ● 政策説明会

## 主要テーマは「誘店策の強化」と「CCS活動の積極推進」

来季の営業政策についてスライドを使用して説明。「誘店策の強化」と「CCS活動の積極推進」についてはショップの皆様にご協力をお願いしたいところ。

### 「誘店策の強化」

- 専門誌へのティザー広告、電子カタログの提供等のバックアップ策を展開。
- 免許番号を対象とした「マリナンバース」の展開。
- 全国レベルでの広告展開の強化、一般誌への広告展開なども予定。
- ショップでの商品展示の強化など。

### 「CCS活動の積極推進」

- サービス力のレベルアップを目的としたサービス講習会等の開催。
- MJCの入会条件の緩和、イベントサポートプログラムの継続と充実。
- ショップにおけるスラロームタイムトライアルを中心とした積極的なイベント開催。



# 97年度MJスラロームキングが決定！ MJジャンボリー全国大会 in 木曽川

毎年、マリジェットライダーの祭典として開催されているマリジェットジャンボリーが、さる10月13日(日)、岐阜県羽島市の木曽川河川敷・特設会場において、盛大に開催された。競技は<スラロームタイムトライアル>と<クローズドコースレース>の2種目。両種目合わせて70名がエントリーし、それぞれ4クラスに分かれて順位を競った。



ヤマハマリジェットクラブでは、今年のユーザー向けイベントプログラムの一つとして「スラロームタイムトライアル」をショップの皆様のご協力のもと、全国各地で開催してきた。IJSBAの世界統一企画コースを用い、ベストタイムの登録による年間ランキング方式を採用。今大会の<スラロームタイムトライアル>は、全国各地の上位選手によって初代の「スラロームキング」を決するという位置づけで、大いに盛り上がった。

マリジェットクラブでは来年度も引き続きイベントサポートプログラムを実施。全国各地でのタイムトライアルの開催をバックアップする。



激戦のスポーツクラスで初代スラロームキングとなった森本選手(中央)

クローズドコースレースも白熱。会場を大いに沸かせた



## <上位成績>

### 【スラロームタイムトライアル】

#### ■スキークラス

[MJ-500S,650SJ,700SJ,700FX]

- ① 佐橋数人 / 24秒48 (TOP KNOT RACING)
- ② 吉村ゆかり / 24秒97 (TOP KNOT RACING)
- ③ 吉田慎一郎 / 25秒01 (F.DREAM)

#### ■スポーツクラス

[MJ-700TZ,700TZR,700RZ]

- ① 森本純 / 22秒43 (よい子わるい子 with SST)
- ② 中島昭平 / 23秒01 (Team.N.W.WIND)
- ③ 赤尾正樹 / 23秒19 (Rumble Fish)

#### ■ランナバウト-1

[MJ500T,650T,650TL,650S,650TX,700TX,700TL,700RA,700VN,760RA]

- ① 山本勝義 / 23秒04 (マリンファイヤー)
- ② 滝藤定夫 / 23秒94 (MS21 B-West Racing)
- ③ 今村敏久 / 24秒23 (P-DRAGON RACING TEAM)

#### ■ランナバウト-2

[MJ-1100RA,1100VN]

- ① 森秀和 / 25秒37 (ブルージュメイエンパワード)
- ② 堀幸治 / 34秒06 (MS21 B-West Racing)

### 【クローズドコースレース】

#### ■スキークラス-1

[MJ-650SJ,700SJ,700FX]

- ① 佐橋数人 / (TOP KNOT RACING)
- ② 今瀬利幸 / (TOP KNOT RACING)
- ③ 都倉重喜 / (サーカス)

#### ■スキークラス-2

[MJ-700SJツインキャブ]

- ① 吉田慎一郎 / (F.DREAM)
- ② 高木善規 / (ブルージュ)
- ③ 大熊秀尚 / (ヤマハ中部)

#### ■スポーツクラス-1

[MJ-700TZ,700TZR]

- ① 北川朝雄 / (ヤマハ中部)
- ② 越後屋隆博 / (Rumble Fish)
- ③ 該当なし

#### ■スポーツクラス-2

[MJ-760RZ]

- ① 伊藤保彦 / (セビアレージング)
- ② 指田達男 / (P-DRAGON RACING TEAM)
- ③ 浅田孝和 / (MJC LA LA LA)



## 新機能を徹底解説

### サービス講習会



新製品の新機能の説明などが行われたサービス講習会。グループ別の説明ではアラーム/ロック機能付きのマルチファンクションメーターや新ポジションのアジャスタブ、スポンソンなどに質問が集中した。

## 部品説明 ラインナップが充実した ウェイクボード

部品の中でも特に注目を集めていたウェイクボード。97年度はトップライダー・オリジナル・モデルを導入したほか、ツインチップモデルの充実、新ブランドの提案など、一層訴求力のあるラインナップとなっている。今回参考として紹介されたU・S・YAMAHAのオリジナル用品が人気を呼び、一部商品の取扱を限定で開始することになった。



私もヤマハ

5

MJ-700SJ

## 世界選手権で4位入賞 でも、正直言うとちょっと悔しい

サンワレーシングクラブ  
プロジェクトスポーツライダー 尾澤聖子さん(25)



「来年はこのゼッケン番号が1番になるんですよ」

今年、国内ランキングで1位(昨年4位)となったプロジェクトスポーツライダーの尾澤聖子選手は、子供のような笑顔を見せながら嬉しそうに語った。

トップレベルのスポーツ選手は大きく2つのタイプに分かれる。一つは、Jリーガーによく見られる、大言壮語とも思われる言動をぶち上げつつ、それによって自らを鼓舞していくタイプ。もう一つは、不言実行で多くを語らず淡々と自らの夢を実現していくタイプ。ドジャースの野茂選手がこのタイプだろう。少々強引な分類ではあるが、この尾澤聖子選手は淡々としていながら、実に大胆な行動力を持ち合わせた、野茂タイプに近

いアスリートである。

昨年、念願のA級ライセンスを手にした彼女は、初めて世界選手権に参加した。不慣れなスラローム種目だったこともあって、結果は予選落ち。

「何が何だかわからないうちに終わってしまったというのが実感でした。でも、終わってしばらくしたら何だか悔しさがこみ上げてきて……」

正真正正の惨敗だった。でも、彼女の目には今後埋めていくべき相手との距離が見えていた。一生懸命練習すれば、勝てる。

高校卒業後ずっと務めてきた会社を今年の1月に退社。近所の木工所でアルバイトをしながら、週末6日の練習時間を確保した。週末以外はたった1人での練習を黙々と続けた。

昨年、A級ライセンスを手に入れたのを機に、尾澤選手はヤマハのスーパージェットに乗り換えた。艇体を倒し込んでコーナーリングする以前のモデルと、ハンドルを切ることによって海面を滑るようにコーナーリングするヤマハ・スーパージェットでは、その感覚は2輪車と4輪車の違いほどある。

「スーパージェットは荒れた海面に強いという部分で興味があったので……。でも、自分のスタイルを変えていくことはすくく大変で。その点でも1人での乗り込みが必要だったんです」



こう書いて来ると、なんだか正調スポ根娘のような印象を受けるかもしれないが、彼女からにはそんな気負いのようなものは一切感じられない。彼女にしてみれば、好きなジェットを好きなように楽しんでいられるだけということなのだろう。

そして今年の10月12・13日の両日、アメリカはアリゾナ州レイク・ハヴァスで行われた「1996 スキャット・トラック・ワールド・ファイナルズ」(ジェットスポーツの世界選手権)で、彼女は邦人女子選手としては最高位の4位に見事入賞した。

「でも、正直言うとちょっと悔しいんです。2レースともスタートで失敗してしまっ。負け惜しみみたいですけど、走り自体は3位の選手に負けてなかったんですよ」。

それが負け惜しみなんかではないことは、彼女の遠慮がちな語り口からはつきりとわかる。お立ち台に上がれなかつた悔しさを胸に、彼女は来年を目指して今日も海に出る。